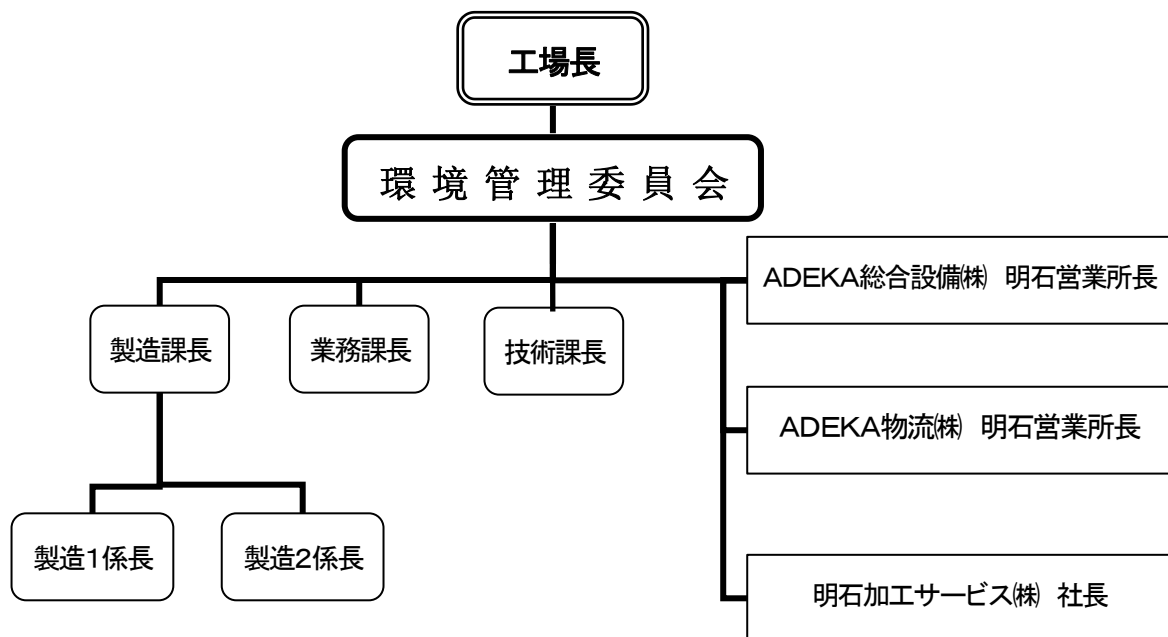


4. 環境・労働・食品安全マネジメントシステムの状況

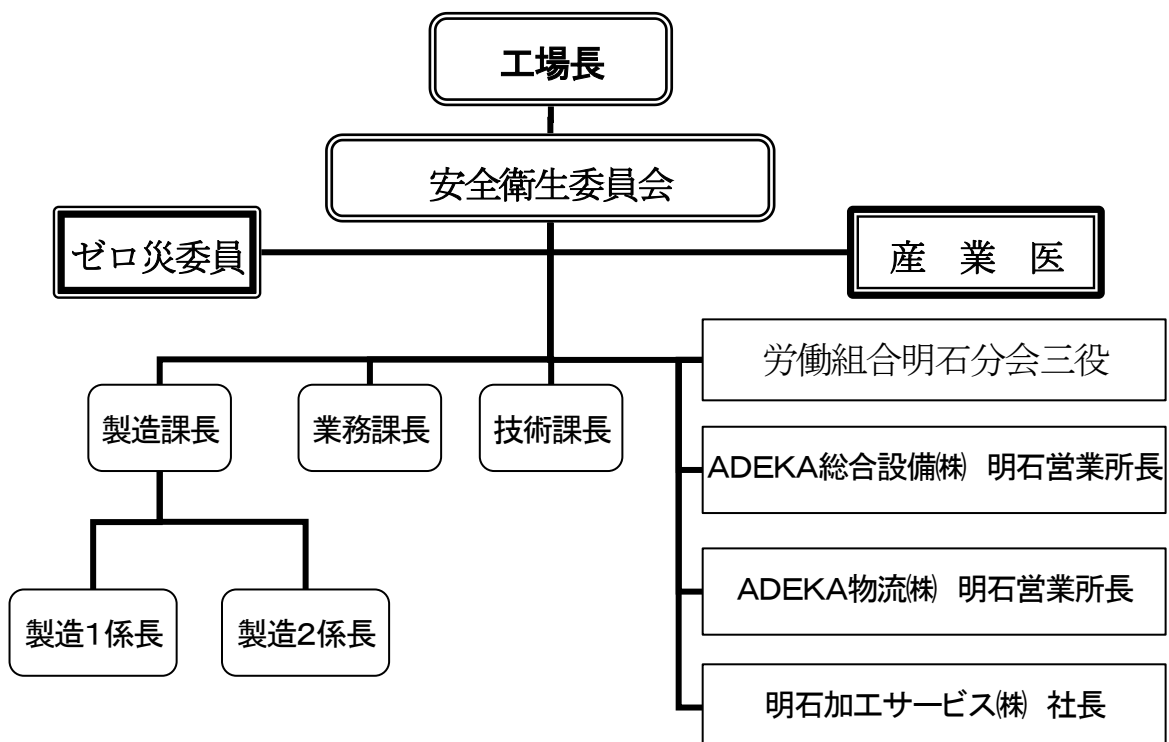
(1) 環境管理・労働安全・食品安全推進組織

当工場の環境管理・労働安全・食品安全推進組織は工場長を委員長として、全部署の代表者で構成する「環境管理委員会」「安全衛生委員会」「食品安全チーム」を中心とし、協力会社3社を含め全員参加の活動を行っております。又、工場長の責務として、環境管理・労働安全・食品安全の最終責任を負うとともに、必要とされる経営資源(人的資源、専門的な技能、技術、資金)を経済的、合理的かつ計画的に提供する責任を負っております。

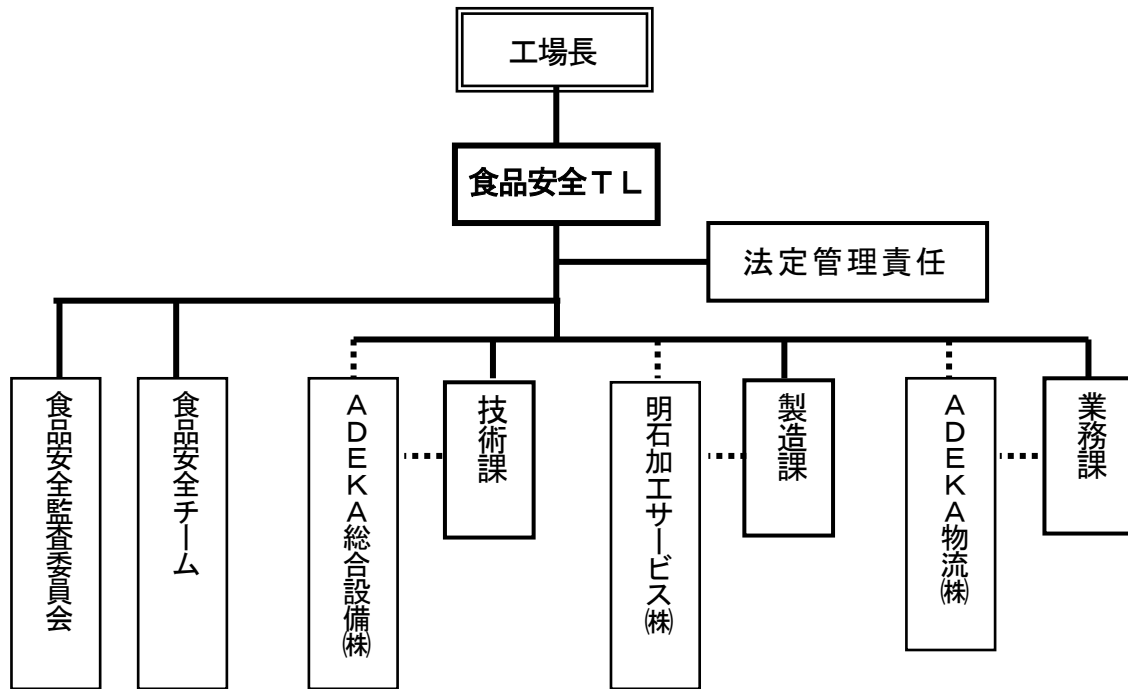
環境管理推進組織図



労働安全衛生推進組織図



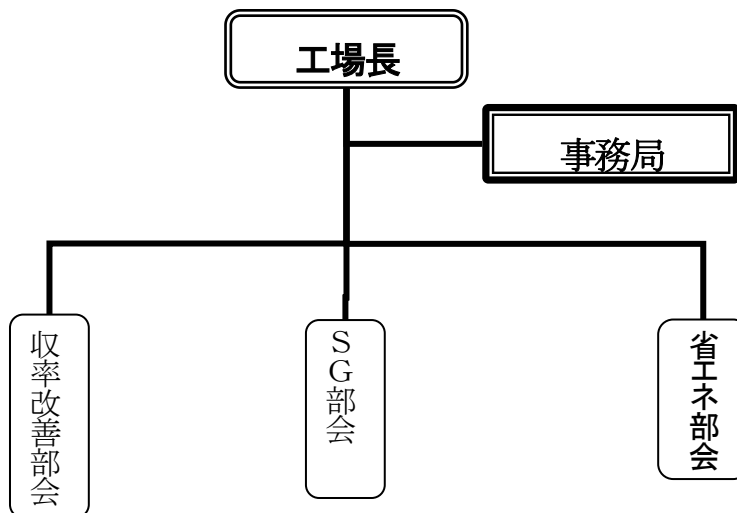
食品安全推進組織図



(2) 環境教育及び活動への取組み

当工場は、2006年から「改善プロジェクト2006」と言う改善活動組織を立ち上げ、会社・各課の垣根を越えた改善活動を展開しており、全従業員のロス（無駄）に対する意識改革と生産技術に関する（SG）改善活動・環境及び省エネ意識レベル向上を目的に3部会で活動を推進しております。

改善プロジェクト2006組織図



(3) 2007年度目標

2007年度は以下の目標を掲げ活動してきました。

- ①労働災害及び通勤途上災害の撲滅 発生ゼロ。
- ②生産設備等に係わる重大事故の撲滅 発生ゼロ。
- ③労働安全（OHSAS18001）・環境（ISO14001）パフォーマンスの効果的運用による有効性向上。
更に食品安全MS＜ISO22000＞の定着運用＜適合性＞と継続的改善＜有効性＞への展開。

(4) 環境会計(単位：千円)

2007年度の環境設備投資額は炭酸ガス排出量削減に向けたボイラーの老朽化更新（重油⇒ガス）により増加。又、効果は「改善プロジェクト」の省エネ・収率改善活動の効果です。

	2006年度	2007年度
環境設備投資額	1,850	31,319
環境維持コスト	65,594	57,539
環境保全効果に伴う経済効果	12,641	27,598

5. 環境パフォーマンス（環境保全への取組みと改善状況）

(1) 水質汚濁への対応

①井戸水の利用状況

当工場は2本の深井戸より汲み上げ、食品衛生法で認可されている「飲用適の水」として配合水、洗浄水、またボイラー用水・機器の冷却水として使用しています。（12万m³/年間）井戸の管理については「東播磨地下水利用対策協議会」に加盟し活動しております。

②排水の水域への排出

当工場の生産活動に伴う生産工程からの排水（1日220m³/day以下）は、2007年9月より加古川流域下水道に接続放流開始。接続した現在も、加古川流域下水道に流す前に排水処理設備で一次処理をした後（規制値以下のクリーンな水である事を確認後）放流しております。

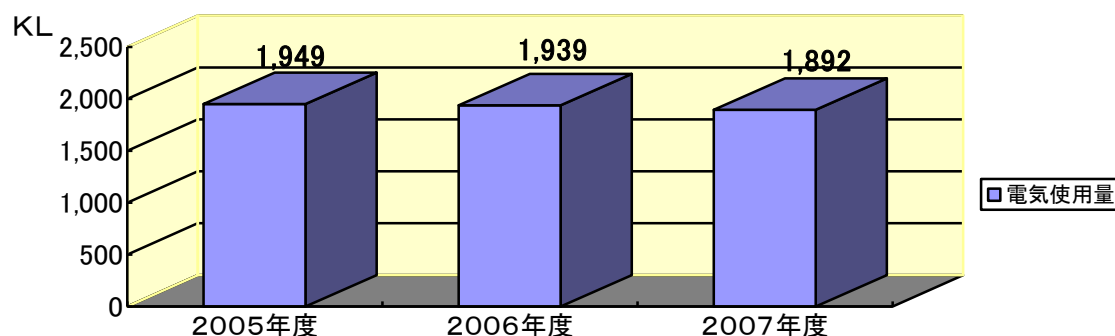
(2) 大気汚染への対応

当工場は2007年5月に生産ラインの殺菌等に使用する蒸気を発生させる為に、使用していた小型貫流ボイラー4基（6トン：燃料はA重油）を炭酸ガス排出量削減とボイラー設備の老朽化対策により、エネルギー効率の高い機器導入（燃料転換：A重油 → 都市ガス）をしました。

又、電気は特別高圧電力を引いており、「第1種エネルギー指定工場」になっております。工場方針にのっとり以下の項目を取り決め、「改善プロジェクト2006」の各部会活動で改善への取組みを展開しております。

- ① エネルギーの効率の高い機器の導入。（省エネ部会活動）
- ② 生産の集中化によるエネルギー効率の向上。（収率改善部会活動）
- ③ 蒸気・冷却水漏れ等、ロスの削減。（省エネ部会活動）
- ④ 照明はこまめに消灯（常時不要場所、昼休み休憩時等）する。（省エネ部会活動）
- ⑤ 冷暖房設定温度は夏季28℃以上、冬期20℃以下にする。（省エネ部会活動）
- ⑥ 駐車中の自動車はエンジンを停止する。又、アイドリングは禁止する。

電気使用量（単位：KL） 原油換算



重油・都市ガス使用量（単位：KL） 原油換算